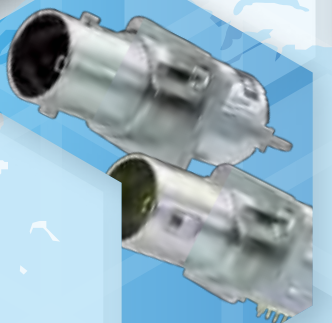
CANARE Value Innovator



45周年 おかげさまで創業

2015年度 第43期

第2四半期決算報告書

平成27年1月1日～平成27年6月30日

カナレ電気株式会社
www.canare.co.jp

証券コード：5819

株主の皆様へ

第2四半期連結業績概要

前年同期	当第2四半期
売上高	
46.9 億円	**51.9** 億円 (+10.6%)
営業利益	
6.3 億円	**8.2** 億円 (+29.4%)
経常利益	
6.7 億円	**8.8** 億円 (+30.0%)
第2四半期純利益	
4.8 億円	**6.2** 億円 (+29.8%)
1株当たり第2四半期純利益	
71.5 円	**92.7** 円 (+29.8%)
総資産	
109.4 億円	**130.5** 億円 (+19.4%)
純資産	
94.9 億円	**111.1** 億円 (+17.0%)
1株当たり純資産	
1,407 円	**1,646** 円 (+17.0%)

※連結子会社は、9ページをご覧ください。

ごあいさつ

初めに、当社はこの9月をもちまして創業45周年を迎えました。
これも、株主様、お客様などのご支援があればこそと、改めて心より感謝申し上げます。

さて、第43期（平成27年12月期）第2四半期の当社グループの業績は当報告書に記載、表示したとおりですが、ここにその概要についてご報告申し上げます。
当第2四半期の当社グループをとりまく経営環境は、韓国、ASEAN諸国、ロシア市場が停滞気味に推移したものの、日本市場が上向き傾向であったことや円安基調が続いたため全体的には当社グループにおきましては追い風状況で推移しました。
このような中、当社グループは国内では電子機器、AVコンソール製品などの新規製品の販促活動に、海外市場においても、光カメラ接続ケーブル、各種コネクタの販促活動に注力してまいりました。また、生産面では、海外生産品を中心に品質改善やコストダウンにより競争力の強化に努めてまいりました。
この結果、売上高51.9億円（前年同期比10.6%増）、経常利益8.8億円（前年同期比30.0%増）、純利益6.2億円（前年同期比29.8%増）となりました。中間配当金は、創業45周年記念配当（5円）を加えて23円とさせていただきました。

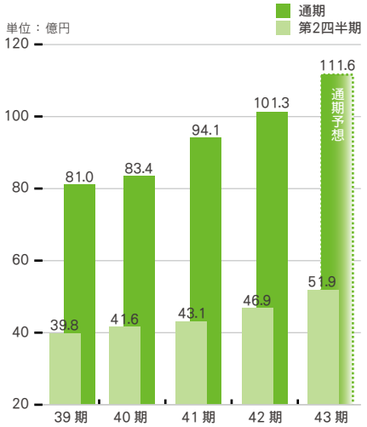
通期業績予想につきましては、第2四半期は純利益が業績予想値を上回りましたが、円安基調が継続することや国内市場が堅調に推移すると予想される一方、海外市場がやや不透明なことや販売管理費の増加が見込まれることから、現時点では、当初に公表した売上高111.6億円（前期比10.1%増）、営業利益17.4億円（前期比8.2%増）、経常利益17.9億円（前期比3.7%増）、純利益11.3億円（前期比2.5%減）と据え置きとさせていただきました。なお、期末配当金につきましては、22円(年間45円)を予定しております。

株主様におかれましては、今後もご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

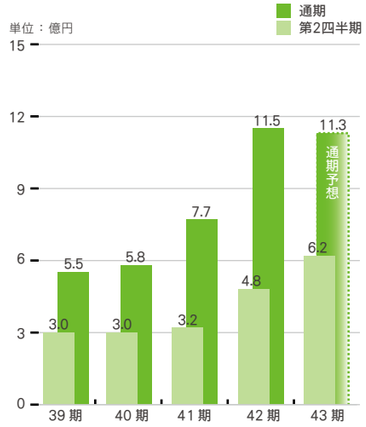
平成27年9月
カナレ電気株式会社
代表取締役社長
尾羽瀬正夫

連結業績推移

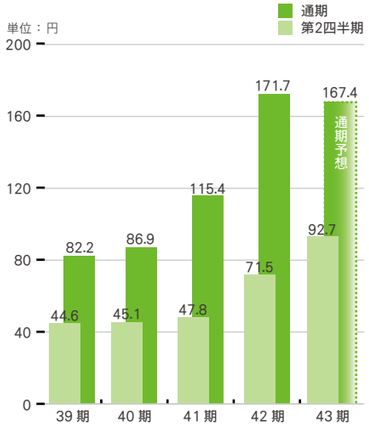
売上高



純利益



1株当たり純利益

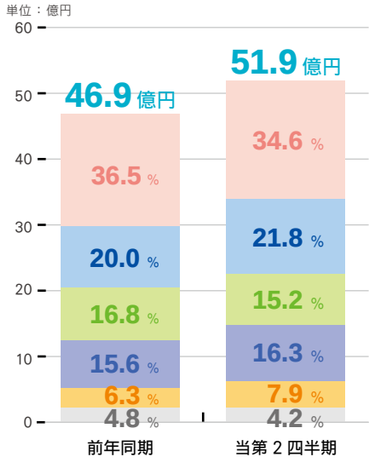


<ご注意!>通期予想は、現在入手可能な情報を基に慎重に策定しておりますが、さまざまな要因の変化から、実際とは大きく異なる可能性がございます。予めご承知ください。

製品別の状況

		前年同期	当第2四半期
ケーブル	同軸ケーブル 光カメラケーブル など	17.1 億円	**17.9** 億円 (+4.9%)
ハーネス	コネクタ付き接続ケーブル など	9.3 億円	**11.3** 億円 (+20.5%)
コネクタ	BNCコネクタ DINコネクタ など	7.9 億円	**7.8** 億円 (−0.3%)
パッシブ機器	AVコンソール製品 ビデオパッチ盤 など	7.3 億円	**8.4** 億円 (+15.3%)
電子機器	光コンバータ など	2.9 億円	**4.1** 億円 (+39.5%)
その他	他社購入品 など	2.2 億円	**2.1** 億円 (−2.4%)
	合計	46.9 億円	**51.9** 億円

■構成比



尾羽瀬社長が
質問にお答えします。

Q1 国内売上高が好調のようですが?

A. 当第2四半期の国内売上高は28.8億円（前年同期比13.7%増）と、過去10年で最も高い増加率となりました。これは、国内市場での需要が増加していることおよび当社が注力している電子機器、AVコンソール製品などの売上高が増加したためです。電子機器、AVコンソール製品は宣伝して顧客の反応を待つだけでは、ほとんど売上につながりません。顧客の投資案件の情報をいち早く収集し、これをもとに顧客要求（機能、性能、信頼性、価格等）に合った製品を提案し顧客に受け入れられて初めて購入していただけます。（大型物件の場合は数年前から提案を行います。）そのため、当社の営業担当は靴の底を擦り減らしながら、顧客の投資案件探しのため顧客訪問を行っております。このとき、ケーブル、コネクタ、ハーネス、電子機器と幅広い製品群を持つカナレの強みが発揮されます。電子機器、AVコンソール製品などの売上高が増加したのもこれら一連の活動の結果です。このように、国内市場環境が良くなっていることに加えて、カナレの持つ強み（製品の品揃え）と販促活動により国内売上高は近年にない高い増加率となりました。下半期も引き続き積極的に販促活動を展開し、年間国内売上高の2桁増（前期比）を目指します。現在の市場環境下では売上高の2桁増加（年間ベース）は可能とみております。

Q2 海外売上高はどうでしたか?

A. 2008年のリーマンショック、2011年の東日本大震災の影響もあり、2013年頃まで国内売上高が低迷し、それを海外売上高増でカバーしてきましたが、昨年あたりから状況が変わりつつあります。つまり、国内売上高が増加傾向である一方、海外売上高が地域によって異なりますが、全体としては伸び悩む傾向となりました。（前年は、アジア大会（韓国・仁川）による大型需要があったことも当第2四半期の増加率が低下気味である理由の一つです。）下記の表は、2011年度からの第2四半期ベース海外売上高の増加率（前年同期比）推移です。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
増加率	17.2%	-4.5%	19.5%	6.9%	7.0%

2014年度からはアジア各国の経済成長の鈍化やロシアの経済的混乱の影響を受けました。特にアジア市場のウエイトの高い当社グループはその影響も大きく、円安環境下でも当第2四半期の増加率（前年同期比）は7.0%と前年並みでした。中国、米国、台湾など現地通貨ベースの売上高は伸びているものの、前年度のアジア大会需要の反動があった韓国、経済成長の鈍化したASEAN諸国および経済的混乱にあるロシアでの現地通貨ベース売上高が減少するなど当第2四半期の海外売上高は決して満足のいくものではありませんでした。この対策としては、アジア諸国での拡販をはかることはもちろんのこと、これに加えて、ビジネスの地域を広げることにより成長をはかってまいります。世界には、まだ当社が本格的に進出してない地域はたくさんあります。例えばインドです。当社は、本年3月インドに100%カナレ電気（株）出資の販売会社を設立いたしました。軌道にのるまでは多少の時間がかかりますが、インドは将来性ある有望市場ですので、近い将来、必ずカナレグループ成長の一翼を担ってくれるはずです。

Q3 下半期に取り組むべき課題は?

A. 国内市場が順調であることに加えて、円安状態の経済環境下は当社にとって居心地の良い状態ですが、問題が無いわけではありません。その一つは、円安による海外生産品のコストアップです。当社はコネクタの大部分を中国で生産しておりますが、中国の通貨である人民元はかなりのスピードで人民元高となっており、コストダウンが追いつかない状態です。昨年上半期の人民元の平均レートは16.65円でしたが、当第2四半期は19.20円で15%程度アップしております。前々期に比べれば約20%上昇しております。その分、海外生産品の円換算後のコストがアップしているのです。特に、これら海外生産品を日本国内で販売する場合は、円安によるコストアップ分は粗利益の減少になります。値上げをすれば粗利益を確保できますが、競争が厳しく簡単に値上げができるわけではありません。このような状況への対応は、更なるコストダウンが不可欠ですが、その方法として中国から他国への生産移管が考えられます。昨今の報道によりますと、日本企業は中国から日本やベトナムなどへの生産移管を行っているようです。当社も中国生産のメリットを生かしつつ、生産の一部（特に日本市場向け製品）を中国から他国（日本、ベトナムなど）へ移管することによりコストダウンをはかり円安・人民元高のマイナス影響を最小限に抑える計画です。このように、人民元高への対応は、当社にとっても避けてはとおれない課題です。

子会社社長に聞く

当社が国内市場で強い理由にカナレハーネス（株）の存在があります。
お客様からの特注品（ハーネス製品）を高品質、短納期で製造、納入することにより、
カナレの強さを支えており、これが国内売上高増加の一因となっています。
カナレハーネス（株）の **生駒社長** に聞きました。

Q1. カナレグループにおけるカナレハーネスの役割は?

A. 全国津々浦々の録音スタジオ、放送局、ドームスタジアム、テーマパークで、『今!』カナレの製品を要望されるお客様に、それぞれの仕様にあった高品質なオーディオ接続ケーブル、BNC接続ケーブル、光カメラケーブル、光コンバータ等を短納期かつリーズナブルな価格でお届けすることです。これらの多くの製品は、お客様によって仕様が異なる特注品です。しかも短納期での納入が要求されることもあり、特に、繁忙期である毎年1月から3月までは忙しさでてんてこ舞いです。

Q2. カナレハーネス（株）の強みは何ですか?

A. お客様によって異なる仕様のBNC接続ケーブル、光カメラケーブル等を、多品種小ロットで製造し、お客様の厳しい要求（品質、納期、価格）に応えることができる生産体制やそれを支える従業員の意欲、スキルが当社の強みになっております。

Q3. お客様の要求（高品質、短納期）は厳しいと思いますが、どう対応するのでしょう?

A. 絶え間ないスタッフのスキルアップ訓練や作業環境の向上、生産委託先への技術指導を行うと同時に、親会社の関連部門と緊密なコミュニケーションをはかり、正確な受注情報を製造現場にスピーディーに提供し、スタッフの受注品情報の共有や事前の段取り、準備により品質不良の撲滅や作業の効率化を図っております。

Q4. 今後、どのようにカナレグループに貢献するのでしょうか?

A. 何といってもカナレハーネスの強み（Q2参照）を発揮することです。幸い、2020年には東京オリンピックがあり、この間、放送市場、電設市場では多くの需要が見込まれ、カナレへ多くの特注品の注文がくることでしょう。まさに、当社の出番です。当社のノウハウなくして顧客の要求には応えられません。これまでに創りあげてきたノウハウ（多品種小ロット生産で高品質、短納期）を武器にカナレグループ成長の一翼を担いたいと考えています。

※現時点での入手可能な情報に基づいた見通しであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績はさまざまな要因により異なる場合がありますのでご承知おきください。

第２四半期連結財務諸表

第２四半期連結貸借対照表の要旨

（単位 千円）

資産の部	第2四半期 2015.6.30	前年同期 2014.6.30
流動資産	**10,544,772**	**8,625,695**
現金および預金	6,800,412	5,505,016
受取手形および売掛金	1,232,630	1,018,433
棚卸資産	2,009,751	1,616,695
繰延税金資産	181,124	147,592
1 その他	324,398	391,267
貸倒引当金	▲ 3,544	▲ 53,308
固定資産	**2,514,271**	**2,314,628**
有形固定資産	**1,306,147**	**1,262,209**
建物および構築物	254,218	252,830
機械装置および運搬具等	269,625	235,641
土地	782,302	773,738
無形固定資産	**74,556**	**3,574**
2 **投資およびその他の資産**	**1,133,567**	**1,048,843**
資産合計	**13,059,043**	**10,940,324**

負債の部	第2四半期 2015.6.30	前年同期 2014.6.30
流動負債	**1,491,357**	**1,056,841**
買掛金	543,187	483,052
未払金	174,116	90,940
賞与引当金	76,082	74,529
役員賞与引当金	28,132	15,517
3 その他	669,838	392,802
固定負債	**456,431**	**386,150**
長期未払金	876	1,306
退職給付に係る負債	8,685	5,686
役員退職慰労引当金	66,646	56,157
4 その他	380,221	323,000
純資産の部	**第2四半期 2015.6.30**	**前年同期 2014.6.30**
株主資本	**10,408,939**	**9,376,214**
資本金	1,047,542	1,047,542
資本剰余金	1,175,210	1,175,210
連結剰余金	8,521,700	7,488,656
自己株式	▲ 335,514	▲ 335,195
評価・換算差額等	**702,316**	**121,117**
その他有価証券評価差額金	211,707	157,897
繰延ヘッジ損益	2	57
土地再評価差額金	▲ 371,051	▲ 371,051
為替換算調整勘定	861,657	334,214
負債・純資産合計	**13,059,043**	**10,940,324**

point 1
・加工委託先への有償材料など 152百万円

point2
・投資有価証券 950百万円

point 3
・未払法人税など 263百万円

point 4
・繰延税金負債 350百万円

point 5
・受取利息・配当金 20百万円
・為替差益 10百万円
・投資事業組合運用益 19百万円

point 6
・固定資産除却損 3百万円
・賃貸原価 2百万円

point 7
・投資有価証券売却益 62百万円

第2四半期連結損益計算書の要旨（単位 千円）

科 目	第2四半期 2015.1.1～6.30	前年同期 2014.1.1～6.30
売上高	**5,190,841**	**4,692,983**
売上原価	3,000,903	2,757,201
売上総利益	**2,189,937**	**1,935,782**
販売費および一般管理費	1,366,400	1,299,231
営業利益	**823,537**	**636,551**
5 営業外収益	64,644	51,547
6 営業外費用	7,644	10,902
経常利益	**880,537**	**677,196**
7 特別利益	62,767	26,142
特別損失	–	316
税金等調整前第2四半期純利益	**943,304**	**703,022**
法人税、住民税および事業税	320,402	219,208
法人税等調整額	▲ 3,374	1,161
第2四半期純利益	**626,276**	**482,652**

第2四半期連結キャッシュ・フロー（単位 千円）

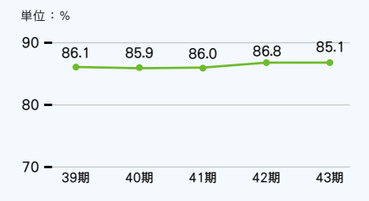
	第2四半期 2015.1.1～6.30	前年同期 2014.1.1～6.30
8 営業活動によるキャッシュ・フロー	561,051	368,050
9 投資活動によるキャッシュ・フロー	29,881	▲ 93,594
10 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 168,919	▲ 108,070
現金および現金同等物に係る換算差額	14,635	▲ 52,227
キャッシュ・フロー計	**436,649**	**114,158**

point 8
・税引前純利益 943百万円
・棚卸資産の増加 ▲280百万円
・売上債権の減少 174百万円
・法人税等の支払額 ▲390百万円

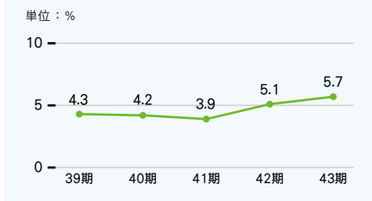
point 9
・定期預金の預入による支出 ▲3百万円
・投資有価証券の売却による収入 141百万円
・固定資産の取得による支出 ▲107百万円

point 10
・配当金の支払額 ▲168百万円

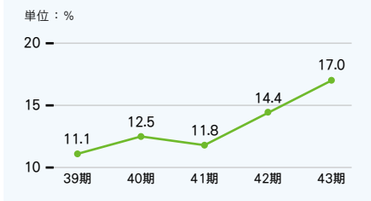
自己資本比率（第２四半期連結）



自己資本純利益率（ROE/第２四半期連結）



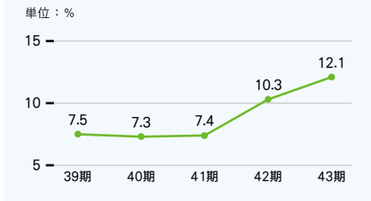
売上高経常利益率（第２四半期連結）



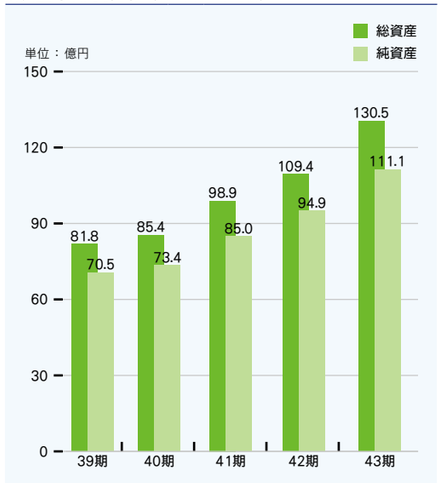
１株当たり純資産（第２四半期連結）

１株当たり純利益（第２四半期連結）

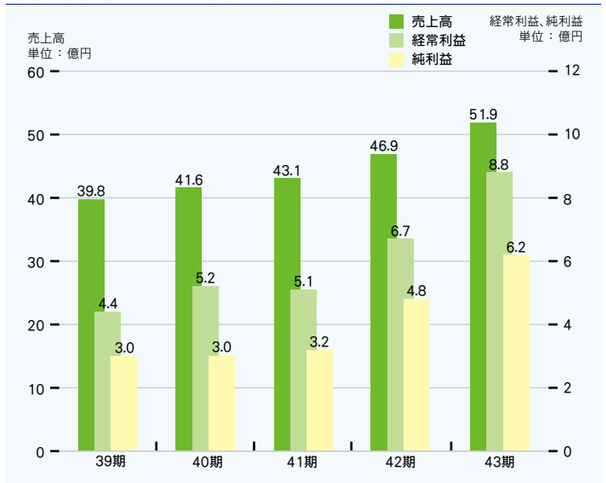
売上高純利益率（第２四半期連結）



財産状況推移（第２四半期連結）



業績推移（第２四半期連結）



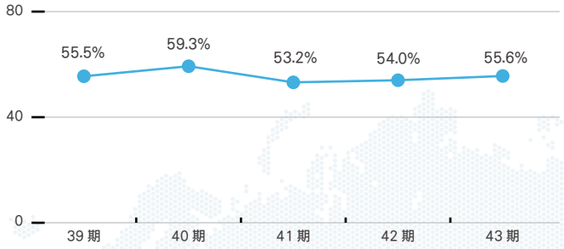
市場別売上高・構成比推移

※連結子会社は、9ページをご覧ください。

国内市場

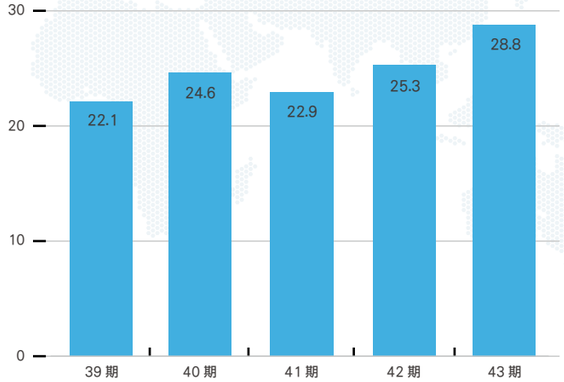
■構成比

単位：%



■売上高

単位：億円

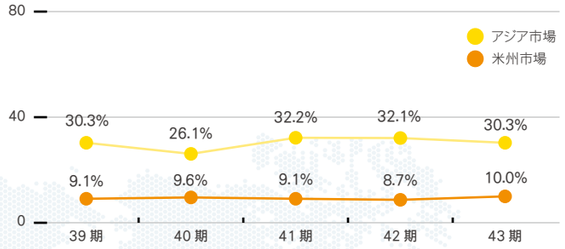


大型物件の受注、放送・電設市場ともに需要が上向きであったことに加え、電子機器・AVコンソール製品の販売促進活動の成果により、売上高は前年同期比13.7%増になりました。

海外市場

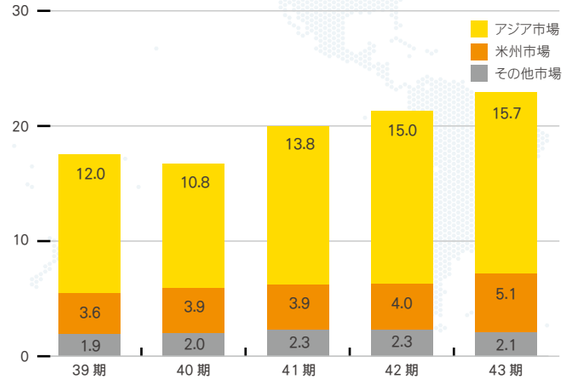
■構成比

単位：%



■売上高

単位：億円



韓国、ASEAN諸国、ロシア市場の経済的停滞の影響を受け、一部地域で厳しい状況であったものの、台湾での放送局の需要増など売上が順調であったことと、円相場が円安となったことから売上高は前年同期比7.0%増になりました。

株式の状況 (2015年6月30日現在)

発行可能株式数	23,092,200 株
発行済株式の総数	7,028,060 株 (内 自己株式数 278,470 株)
単元株式数	100 株
株主数	8,160名 (前期末比 94名増加)

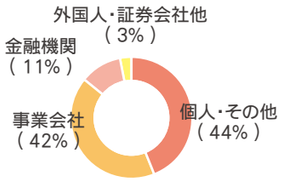
大株主

株主様名	所有株式数 (単位 千株)	出資比率 (単位 %)
有限会社香流	800	11.3
株式会社新高輪	800	11.3
株式会社センリキ	350	4.9
川本公夫	300	4.2
カナレ電気株式会社 (自己名義)	278	3.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	217	3.1
加藤宣司	200	2.8
川本重喜	200	2.8
株式会社ノダノ	200	2.8
合同会社カワシマ	200	2.8

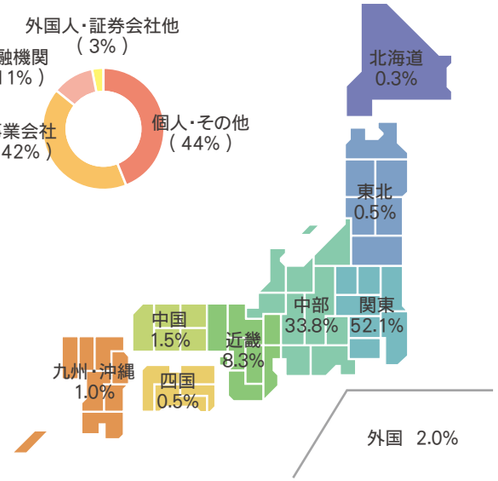
●所有株式数は千株未満を、出資比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

株主様分布 (議決権個数の割合による)

[所有者別]



[地域別]



株主優待

カナレ電気の株主優待制度

基準日現在の株主名簿に記載され、かつ100株以上を保有されている株主様へ半期ごとに株主優待品を贈呈いたします。

同封いたしましたので、ご確認ください。

(クオカード)

決算日	保有株式数別 優待		お届け時期	贈呈方法
	100株以上 200株未満	200株以上		
2015年 6月30日	クオカード 1,000円分	クオカード 2,000円分	今回同封	「第2四半期決算報告書」に同封
2015年 12月31日			2016年 3月中旬(予定)	「株主総会決議通知」に同封

会社概要

会社概要 （2015年6月30日現在）

商　　号	カナレ電気株式会社
本　　社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜WNビル4F （登記上の本社 愛知県日進市藤枝町）
設　　立	昭和49年（1974年）2月 （創業：昭和45年）
資 本 金	10億4,754万円
従業員数	93名 ／ グループ：244名 （パート、派遣社員は含まず）
事 業 所	新横浜本社、名古屋本社、横浜事務所、名古屋営業所、 大阪営業所、福岡営業所、光デバイス開発部

連結子会社

1 カナレハーネス株式会社
2 Canare Corporation of America
3 Canare Corporation of Korea
4 Canare Corporation of Taiwan
5 Canare Electric (Shanghai) Co.,Ltd.
6 Canare Electric Corporation of Tianjin
7 Canare France S.A.S
8 Canare Singapore Private Ltd.
9 カナレシステムワークス株式会社
10 株式会社カナレテック

※連結子会社の記載順序は設立順です。

取締役、監査役および執行役員

代表取締役社長、社長執行役員	尾羽瀬 正夫	監 査 役	高橋 久志美
常務取締役、執行役員	大野 淳一郎	監 査 役	田中 耕一郎
取締役、執行役員	後藤 晃男	執 行 役 員	太田 猛史
取締役、執行役員	吉森 直樹	執 行 役 員	堀 隆彦
取締役、執行役員	中島 正敬	執 行 役 員	野田 爾
取締役、執行役員	小渕 敦	執 行 役 員	山本 英夫
取締役、執行役員	祖父江 秀行		
取締役相談役	加藤 宣司		
常 勤 監 査 役	財田 洋一		

IR情報に関するお問い合わせ先
小渕 敦 TEL 045-470-5503(代)

現在、さまざまな学校 AV システムで カナレの製品は活躍しております。

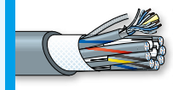
プロジェクタ

VESAケーブル
HDMIケーブル
プロジェクタやパソコンに使用されるケーブル。

スピーカ

スピーカケーブル
電磁妨害問題を解決したスピーカケーブル。

マイク



マイクケーブル
業界スタンダード。ノイズの影響を受けにくいケーブル。

天吊ディスプレイ

ディスプレイハンガー
天井からディスプレイを吊り下げる際に使用。

ディスプレイ

ディスプレイスタンド
各社ディスプレイに対応したディスプレイスタンド。

フロアボックス

フロアボックス用 AVプレート
フロアボックスに対応した AV プレート。

操作卓

レクチャー卓
施工現場の省力化に貢献する講演卓。

壁コンセント

壁用 AVコンセント
一般的なコンセント枠に対応した AVコンセント。

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
配当の基準日	毎年6月30日および12月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 **0120-782-031**（フリーダイヤル）
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

住所変更も
証券会社へ

■住所・氏名など届出事項の変更について

証券会社等に口座をお持ちの株主様 … 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。

特別口座をお持ちの株主様 …… 下記連絡先（三井住友信託銀行証券代行部）までお問い合わせください。
なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。

■未受領の配当金のお受け取りについて

支払期間経過後の配当金については、三井住友信託銀行までお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

三井住友信託銀行
証券代行部　**0120-782-031**（フリーダイヤル）

カナレ電気株式会社
神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜WNビル4F
TEL.045-470-5503　FAX.045-470-5504

VEGETABLE OIL INK